

植民地期、 台湾の社・祠 VS 朝鮮の神祠・神明神祠

村落レベルにおける海外神社の比較検討

日時：2017年 **2月25日(土)**
13:00~17:30

会場：神奈川県 横浜キャンパス
1号館 804会議室

参加自由／事前申し込み不要
※全て日本語で行われます。

プログラム

開会挨拶：小熊 誠（非文字資料研究センター研究員）
趣旨説明：中島三千男（非文字資料研究センター客員研究員）
総合司会：津田良樹（非文字資料研究センター研究員）

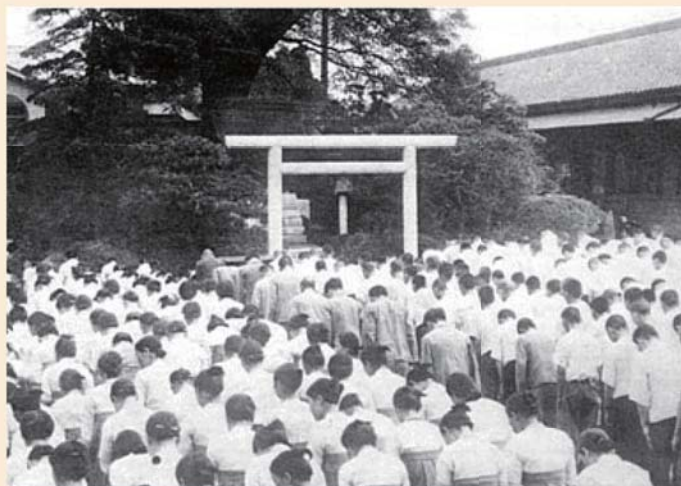
講演

- (1) 蔡錦堂(国立台湾師範大学) (講演 日本語)
「植民地期台湾に建てられた社・祠について」
- (2) 青野正明(桃山学院大学)
「植民地朝鮮における公認神祠、無願神祠、在来の村祭りー村落レベルでの[神社]とは」

補足報告

金子展也(非文字資料研究センター研究協力者)
「写真で見る台湾の社・祠」

討論



旧京城地方専売局の神祠

出典：絵葉書



南澳祠 台湾・宜蘭県南澳郷

出典：理蕃の友

植民地期、 台湾の社・祠 VS 朝鮮の神祠・神明神祠

村落レベルにおける海外神社の比較検討

日時：2017年 **2月25日(土)**
13:00~17:30

会場：神奈川大学 横浜キャンパス
1号館 804会議室

参加自由／事前申し込み不要 ※全て日本語で行われます。

戦前期、日本の植民地とされた台湾、朝鮮の両地域には数多くの神社(海外神社)が建てられたが、その中でも最も数多く建てられたのが、台湾においては社・祠、朝鮮においては神祠・神明神祠と呼ばれた村落レベルの神社である。特に台湾においては1934年の「一街庄一神社」政策、朝鮮においては1938年の「一面一神社」政策によりその数は急激に増えていった。海外神社の研究はこれまで官国幣社クラスの大都市部の神社を中心に研究されてきたが、近年、現地の台湾人、朝鮮人と密接に関わった、この村落レベルの神社の研究が進展してきた。

こうした状況を踏まえ、本公開研究会では旧台湾、旧朝鮮における村落レベルの神社の比較検討を行い、これらの神社の果たした役割を解明する。

プログラム

開会挨拶：小熊 誠 (非文字資料研究センター研究員)
趣旨説明：中島三千男 (非文字資料研究センター客員研究員)
総司会：津田良樹 (非文字資料研究センター研究員)

講演

- (1) 蔡錦堂 [国立台湾師範大学] (講演 日本語)
「植民地期台湾に建てられた社・祠について」
- (2) 青野正明 [桃山学院大学]
「植民地朝鮮における公認神祠、無願神祠、在来の村祭りー村落レベルでの[神社]とは」

補足報告

金子展也 (非文字資料研究センター研究協力者)
「写真で見る台湾の社・祠」

討論



交通アクセス

電車：東急東横線「白楽駅」下車 徒歩 13分
バス：横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用 (東神奈川駅西口経由)
1 番乗場 36 系統 菅田町または緑車庫行 「神奈川大学入口」下車 徒歩 5分
1 番乗場 82 系統 八反橋または神大寺入口行 「神奈川大学入口」下車 徒歩 5分
※駐車場がございませんので、自家用車でご来場はご遠慮ください。

問い合わせ先／神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター事務室
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL: 045-481-5661 (内線3532) FAX: 045-491-0659
<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/> <http://www.kanagawa-u.ac.jp/>



霧ヶ丘社 台湾・台湾・南投県仁愛郷

出典：埔里図書館



大南八幡社 台湾・台中市新社区

出典：大南蔗苗養成所



金瓜石社 台湾・新北市瑞芳区

出典：金瓜石鉱山写真帖



チャカクラン祠 台湾・台東県達仁郷

出典：東台湾展望